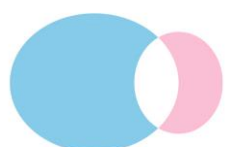


平成30年度

事業報告書



学校法人森島学園

1. 法人の概要

(1) 学校法人の沿革

平成 13 年 3 月	学校法人 森島学園創立 専門学校浜松医療学院設置認可
平成 13 年 4 月	初代理事長 田村慎一氏就任 専門学校浜松医療学院開校 (鍼灸学科・柔道整復学科) 初代学院長 住山正男氏就任
平成 15 年 4 月	初代理事長 田村慎一氏退任 第2代理事長 森島宏光氏就任 専門学校浜松医療学院2号館完成
平成 16 年 4 月	専門学校浜松医療学院にアスレティックトレーナー学科設置
平成 17 年 4 月	富士リハビリテーション専門学校開校 (理学療法学科・作業療法学科) 初代学校長 竹之下政興氏就任
平成 19 年 3 月	専門学校浜松医療学院初代学院長 住山正男氏退任
平成 19 年 4 月	専門学校浜松医療学院第2代学院長 白井義雄氏就任 専門学校浜松医療学院名誉学院長に 住山正男氏就任 富士リハビリテーション専門学校初代校長 竹之下政興氏退任 富士リハビリテーション専門学校第2代校長 菊池和也氏就任
平成 22 年 11 月	学園創立 10 周年記念式典挙行 専門学校浜松医療学院創立 10 周年記念式典挙行
平成 26 年 11 月	富士リハビリテーション専門学校 10 周年記念式典挙行
平成 28 年 3 月	富士リハビリテーション専門学校第2代校長 菊池和也氏退任
平成 28 年 4 月	富士リハビリテーション専門学校第3代校長 内田成男氏就任
平成 29 年 3 月	第2代理事長 森島宏光氏退任 森島学園学園長に就任
平成 29 年 4 月	第3代理事長 森島康之氏就任
平成 30 年 3 月	森島宏光氏 森島学園学園長退任
平成 30 年 4 月	森島宏光氏 森島学園グループ会長に就任

2 設置する学校、学科等

平成 30 年 5 月 1 日現在

学校名	開校年月	学科等	学科開設年月
専門学校浜松医療学院	平成 13 年 4 月	鍼灸学科	平成 13 年 4 月
		柔道整復学科	平成 13 年 4 月
		アスレティックトレーナー学科	平成 16 年 4 月
富士リハビリテーション専門学校	平成 17 年 4 月	理学療法学科	平成 17 年 4 月
		作業療法学科	平成 17 年 4 月

3 各校学生数

平成30年5月1日現在

学校名	学科	入学定員	総定員	1年	2年	3年	現員数
専門学校浜松医療学院	鍼灸学科	60	180	34	35	37	106
	柔道整復学科	60	180	37	50	50	137
	アスレティックトレーナー学科	30	60	12	4		16
富士リハビリテーション専門学校	理学療法学科	60	180	60	45	42	147
	作業療法学科	40	120	31	34	25	90

4 役員の概要

理事9名 (定数10名)

監事2名 (定数2名)

平成30年4月1日現在

区分	氏名	常勤・非常勤	摘要
理事長	森島康之	常勤	平成13年4月理事就任 平成13年4月専務理事就任 平成29年4月理事長就任
理事	森島宏光	非常勤	平成15年4月理事就任 平成15年4月理事長就任 (平成29年3月迄)
理事	臼井義雄	常勤	平成19年4月専門学校浜松医療学院学院長就任 平成19年4月理事就任
理事	内田成男	常勤	平成21年5月理事就任 平成28年4月富士リハビリテーション専門学校校長就任
理事	太田仙一郎	非常勤	平成13年4月理事就任
理事	住山正男	非常勤	平成13年4月専門学校浜松医療学院学院長就任 (平成19年3月迄) 平成13年4月理事就任
理事	菊池和也	常勤	平成20年4月富士リハビリテーション専門学校校長就任 (平成28年3月迄) 平成20年4月理事就任
理事	名古政昭	非常勤	平成27年5月理事就任
理事	牛山知己	非常勤	平成27年5月理事就任
監事	大石篤郎	非常勤	平成28年5月監事就任
監事	高林光宏	非常勤	平成27年5月監事就任

5 教職員の概要

平成30年4月1日現在

		森島学園本部	専門学校浜松医療学院	富士リハビリテーション専門学校
教員	本務		24	19
	兼務		33	26
職員	本務	3	15	5
	兼務	2	8	2

6 事業の概要

現在の職業教育を取り巻く環境は、産業構造の急速な転換により予測困難な時代となってきました。産業界等からはより実践的な教育へのニーズや、学び直しへのニーズへの対応が求められ、変化の激しい社会に対応した人材、すなわち高度な実践力と新たなものやサービスを創り出せる創造力を有する人材の強化が急務となっています。そのため平成31年4月より専門職大学が開校されることとなり、国を挙げて職業人の育成強化に向かうこととなっています。この様なことから社会は専門学校の設置者に、より質の高い教育を提供するよう強く求められています。

こうした社会情勢を踏まえて専門学校浜松医療学院の教育課程の改定及び鍼灸学科・柔道整復学科の全日制への移行計画また富士リハビリテーション専門学校の未来構想プロジェクト（3年制から4年制への移行）に取り組み、森島学園として「質の保証」・「実践的な職業人」の育成を行えるよう各企画を推進してまいりました。

7 各校の主な事業の目的・計画及び進捗状況

(1) 専門学校浜松医療学院

① 学生募集

前年度に引き続き、学生課（課長、渉外担当、広報担当）を中心に、効果的な学生募集に向けて各担当部署による計画と活動を行いました。学園本部（菊地総務部長）より学生募集活動における様々な助言を頂きながら、資格・学校の認知度向上のための高校訪問、オープンキャンパスの内容充実、高校の授業協力や部活動のサポート活動も実施致しました。大学進学志向や高校新卒者の漸減、高校生求人倍率の上昇等の社会状況の影響を受けた可能性はありますが、結果的に新入学生の充足率が53%と低迷の状況が続いております。新年度からの学生募集活動は（株）浜松メディカルコンサルティングからのサポートを受けながら、学校全体での学生募集活動の活発化と学生数増に向けて取り組んで参ります。

② 教育

各学年における学習科目の習熟度を向上させることにより、最終学年での国家試験に合格する学力を身に付けることを目的に、全学年共通の学力向上対策を実施致しました。また、鍼灸学科・柔道整復学科の3学年は、模擬試験成績に応じた補習対応により国家試験合格率の向上に取り組ましました。

【 全学年共通 学力向上対策 】

各定期試験における試験最終成績（追再試）に不合格科目があった場合、当該期の学習範囲に関する学力形成不足を早期に解消するため、不合格科目数に応じた自主学習ならびに教員による補習授業を実施致しました。また補習終了後に考查試験を実施することにより、学習内容の習熟度を判定する材料と致しました。

【 3年生 国家試験対策 】

国家試験受験見込み判定の基準となる各回の「総合試験」結果に応じて、学内での補習を実施致しました。また補習対象者の段階的学力形成を図る補講授業ならびに定期的な小テスト実施による学力把握と対策を実施致しました。

昨年度と比較して鍼灸・柔道整復学科の国家試験合格率は向上しましたが、試験の難易度は徐々に上がる傾向にあり、より効果と効率の高い学習指導の手立てを継続的に講じる必要があります。

③ 就職支援

卒業時の就職率70%以上、求人倍率9倍以上（指定資格のみ）を目標にするとともに、本校卒業生の地域貢献に向けた橋渡しをすることに取り組みました。3年生対象の「就職ガイダンス」では社会人としての心得に加えて、鍼灸・柔整分野の事業所採用担当者を講師に招き、就職活動に際する詳細な留意点をレクチャー頂く講座も設けて開催しました。また7月の「就職説明会」は、将来への意識付け（キャリア教育）のために1・2年生も参加する形式を取り、地元だけでなく全国で80以上の事業者様よりご参加頂く盛況な説明会となりました。

【 卒業時就職達成率 】 □ 鍼灸学科:100% □ 柔道整復学科 96.1% □ AT 学科 71.4%
【 求人倍率（年間） 】 □ 鍼灸学科:19 倍 □ 柔道整復学科 12.4 倍 □ AT 学科 15 倍

(2) 富士リハビリテーション専門学校

1) 人事について 平成 30 年度から作業療法学科主任に岡本博行先生が昇格した。また、作業療法学科専任教員として深澤めぐみ先生、理学療法学科 専任教員助手として白井英彬先生が任用された。事務職員については、採用予定であったが、当人の体調不良により採用取消となった。

2) 教育活動および教育力向上の施策 学生の基礎学力低下と心理的諸問題への対応として、担任を中心に多くの個別面談、個別指導 を実施し、解剖学・生理学等の基礎医学については、菊池名誉校長を中心に多くの補習授業を実施して頂いた。一方、教育力向上のための FD 活動は、初年次教育、臨床教育研修会、浜松・富士教育懇談会、学生 FD 委員会活動、教員研修会等、継続的に取り組み、全国リハビリテーション学校協会・教育研究大会にて、渡邊祥子先生、中村毎途先生が研究演題を発表した。また、学生による授業評価および教員からのコメントを掲示板に公開し、教員の授業に対する振り返りを促進した。しかしながら、学業不振、対人関係への不安などを理由に、退学や休学を選択する学生もみられ、今後の対応策強化について検討していきたい。

3) 学則および学校名変更、4年制移行に向けての進捗状況 平成 29 年より継続課題である「学則変更・4年制移行および学校名変更」について、『富士リハ未来プロジェクト（プロジェクトリーダー：宮下正好教務部長）』を中心に検討を重ね、森島学園・理事会の承認、静岡県健康福祉部医療健康局地域医療課および静岡県文化・観光部総合教育局私学振興課との協議を経て、2018 年 12 月に計画書および申請書類一式を仮申請した。その後、指摘事項の修正、学園本部の指導による訂正を実施し、2019 年 3 月 4 日に変更計画書を地域医療課に提出した。今後、計画書の承認が得られた後、正規の申請手続きを進めていく。なお、卒業生、在校生、新入生、保護者、同窓会、臨床実習指導者および臨床実習施設、非常勤講師、理学療法士・作業療法士協会等の関係者・関係機関への報告をしていく。

4) 学生募集・広報活動 高校訪問、進学ガイダンス、学外イベントなどにより、目標として掲げていた①高校との連携強化、②地元への認知度向上、③アピールポイントの広報、④教職員全体の意識改革、⑤優待制度の広報、⑥組織的な活動などは概ね達成できていると考える。特にオープンキャンパスは質・量ともに例年以上の成果を挙げることができ、参加者数も目標を大きく上回ることができた。今後も継続的に効果的な広報・学生募集活動を展開していきたい。また、「入学者選抜」という入試要項の抜本的な改革に着手し、「A0 総合型選抜」「学校推薦型選抜」「一般選抜」「社会人特別選抜」などの選抜区分を明確に示した。また、「遠隔地サポート」「スカラシップ」などの学費サポートの制度について分かりやすく説明を繰り返した。その結果、A0 受験者は前年比 2.5 倍以上、B 日程受験者は前年度比 1.4 倍以上の出願者があり、特に指定校推薦の受験者が増加したことは特筆すべきことである。ただし、競合校の出願状況も比較的堅調との情報もあるため、継続して学生募集に注力していく。

5) キャリア支援および保護者会等 学生部（市村学生課長）を中心に、キャリア支援として「就職説明会」を沼津市、静岡市にて開催した。例年とほぼ同数の施設が参加し、比較的円滑に開催できたと思われる。また、保護者会では、学科・学年毎に座談会形式のグループワークを行った。保護者各位が本校の教育状況を理解する上で有益であったと考えられる。

6) 各種認定（公的機関の認定事項） ・ 一般社団法人 日本リハビリテーション教育評価機構 認定校（両学科：2 回目） ・ 文部科学大臣認定職業実践専門課程認定（両学科） ・ 公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会資格取得認定校 ・ 世界作業療法士連盟（WFOT） 認定校

7) 学生の課外活動および健康管理等学友会中心の行事として、交流セミナー、学園祭（ふじゆめ祭）などが滞りなく開催された。サークル活動では、サッカー部が県専門学校大会にて連続優勝を果たし、更に全国大会では初の決勝トーナメント（ベスト 8 出場）に進んだ。バレーボール部では県専門学校大会にて 3 位、バスケットボール部はクリスタリア静岡大会にて部門 1 位となった。その他、野球部、写真部、ダンス部、ボランティア部などの活動が顕著であった。特にボランティア部は近隣施設のイベントに積極的に協力し、充実した社会貢献ができたと思われる。他方、通学途上における交通事故が多く、校内での学生間のトラブルや心身の健康管理面で心配される事例も認められた。学校として学生の安全確保、健康管理について、よりきめ細かな方策を検討していくべきであると考えられる。